

社会貢献



- ・ 岐阜県野生動物管理推進センターを設置
- ・ 大野町と連携に関する包括協定を締結
- ・ 文部科学省「情報ひろば」企画展示で岐阜県と本学の協働について紹介する展示を実施
- ・ 坂祝町と連携に関する包括協定を締結
- ・ 関ヶ原町と連携に関する協定を締結
- ・ 産学金官連携人材育成・定着プロジェクト「成果発表会」を開催



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜県野生動物管理推進センターを設置

【概要】

本学に岐阜県野生動物管理推進センターが設置されました。

岐阜県野生動物管理推進センターは、岐阜県及び本学が共同設置する野生動物の管理を推進するためのシンクタンク組織として、生物多様性保全の観点から野生動物による被害への対策強化、地域課題の解決と豊かな地域社会の創出に貢献することを目的に事業を実施していきます。

令和4年4月1日（金）に行われた開所式では、光永応用生物科学部長と渡辺岐阜県環境生活部長から挨拶があり、センター長である鈴木応用生物科学部教授から「野生動物の管理に関わる人材育成及び教育、普及活動を行っていききたい」と事業概要が説明されました。その後、研究ラボ3階において、県・大学双方で看板の設置を行いました。



看板を掲げる光永応用生物科学部長（右）
と渡辺岐阜県環境生活部長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/4/2	岐阜	野生動物行動 AI解析 県と岐阜大のシンクタンク開所 獣害対策に活用 ～ 応用生物科学部 光永徹 学部長 ～
2022/4/2	読売	岐阜大が野生動物調査 県と共同 「管理推進センター」設置 ～ 県野生動物管理推進センター長 鈴木正嗣 応用生物科学部教授 ～
2022/4/3	毎日	獣害対策強化へ 岐阜大に新拠点 県と連携、生息分析 ～ 県野生動物管理推進センター長 鈴木正嗣 応用生物科学部教授 ～
2022/4/5	中日	獣害対策の組織 岐阜大内に設置 県と共同 ～ 県野生動物管理推進センター長 鈴木正嗣 応用生物科学部教授 ～
2022/4/9	中部経済	岐阜大に獣害対策の新拠点 生息情報分析、自治体に助言 ～ 県野生動物管理推進センター・センター長 応用生物科学部 鈴木正嗣 教授 ～

大野町と連携に関する包括協定を締結

【概要】

本学と大野町は、令和4年6月29日（水）に連携に関する包括協定を締結しました。

本学と大野町は、これまでも大野町の各種委員会委員、計画策定時のアドバイザーを教員が務めるなど連携を進めてきましたが、本協定では、本学と大野町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは30件目です。

協定締結式では、宇佐美晃三大野町長から、「大学が持つ高い専門的知識や若い学生の柔軟な発想を町の各種施策に反映させたい。」、吉田和弘岐阜大学長から、「大学の研究成果や『知』を活かして、『地域中核大学』として、まちづくりの支援をし、地域のニーズに合わせて連携を深めていきたい。」と挨拶がありました。

今後、岐阜大学と大野町は、大野町職員2名を大学の地域コーディネーターとして委嘱し、小・中学校の適正規模・適正配置の検討や東海環状自動車道大野・神戸インターチェンジ周辺のまちづくりに関する分野等において協議を進め、地域創生に向けて共に取り組んでいく予定です。



協定書を手にする
吉田学長(左)と宇佐美大野町長



懇談の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/6/30	中日	地域課題解決や人材育成で協定 大野町と岐阜大 ～ 吉田和弘 学長 ～

文部科学省「情報ひろば」企画展示で 岐阜県と本学の協働について紹介する展示を実施

【概要】

令和4年7月21日（木）～令和4年8月31日（水）まで文部科学省「情報ひろば」企画展示室で岐阜県と本学の協働について紹介されています。

本学では、全ての学部・研究科が1つのキャンパスにある特徴を教育・研究の両面に活かし、特に、高度な専門職業人の養成に主眼を置いた教育、教育の基盤としての質の高い研究、地域に根差した国際化に取り組んでいます。今回は、その中でも「岐阜県との協働」について、岐阜大学を代表する「地域協学センター」と「航空宇宙生産技術開発センター」の好取組事例を紹介されています。

<主な展示物>

○実物展示

- ・自律滑空機
- ・ミニ滑空機：2機

○映像

- ・航空宇宙生産技術開発センターPR動画

○パネル

- ・企画展示説明：B1ポスター1枚
- ・取組概要・成果紹介（ぎふ地域学校協働活動センター）：A0パネル1枚
B1ポスター2枚
- ・センター概要紹介（航空宇宙生産技術開発センター）：A0パネル1枚
- ・人材育成事業紹介（航空宇宙生産技術開発センター）：A0パネル2枚
- ・研究開発事業紹介（航空宇宙生産技術開発センター）：A0パネル2枚



展示の様子

坂祝町と連携に関する包括協定を締結

【概要】

本学と坂祝町は、令和4年10月5日（水）に連携に関する包括協定を締結しました。

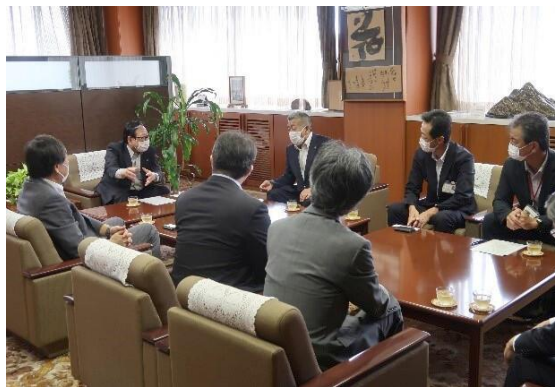
本学と坂祝町は、これまでも坂祝町の教育分野を中心とした各種委員会委員やアドバイザーを教員が務めるなど連携を進めてきましたが、本協定では、本学と坂祝町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは31件目です。

協定締結式では、柴山佳也坂祝町長から、「コミュニティー・スクールやいじめ問題対策、子育て支援を含む教育分野での連携を中心に包括的な連携をしていきたい」、吉田和弘学長から、「坂祝町と包括連携協定を締結できるのは大変うれしい。『地域中核大学』として、地域の自治体と良好な連携をとって地域を発展させていきたい」と挨拶がありました。

今後、岐阜大学と坂祝町は、地域創生に向けて共に取り組んで参ります。



協定書を手にする
吉田学長（右）と柴山坂祝町長



懇談の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/10/6	中日	地域活性化目指し10項目で連携協定 岐阜大と坂祝町 ～ 吉田和弘 学長 ～
2022/10/6	岐阜	岐阜大と坂祝町が協定 教育分野中心に包括連携 ～ 吉田和弘 学長 ～

関ヶ原町と連携に関する協定を締結

【概要】

本学と関ヶ原町は、令和4年10月31日（月）に連携に関する協定を締結しました。

本学と関ヶ原町は、これまでも医療分野を中心とした連携を進めてきました。本協定では、本学と関ヶ原町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは32件目です。

協定締結式では、西脇康世関ヶ原町長から、「岐阜大学が持つ広範囲の知見や研究成果をいただいて、医療や人口減少対策をはじめとした町の課題に対応していきたい」、吉田和弘岐阜大学長から、「岐阜大学は日本一の地域中核大学を目指しており、自治体との連携を強固にするのは使命である。包括連携協定締結を機に、わが国が誇る遺産である関ヶ原町の古戦場を若いアイデアを取り入れて社会へ発信していきたい。また、超高齢社会に対応した医療を充実させていきたい」と挨拶がありました。

会場には二体の甲冑が置かれ、西脇町長と吉田学長が陣羽織姿となり、古戦場のまち、関ヶ原町らしい締結式となりました。

今後、岐阜大学と関ヶ原町は、地域医療と地域振興策に関することを中心に連携を深め、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



協定書にサインする吉田学長



協定書を手にする陣羽織姿の吉田学長（右）と西脇関ヶ原町長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/11/1	中日	地域発展や人材育成目的に包括連携協定 関ヶ原町と岐阜大 ～ 吉田和弘 学長 ～
2022/11/1	岐阜	岐阜大、関ヶ原町と協定 防災や教育など9項目 地域課題の解決で連携 ～ 吉田和弘 学長 ～

産学金官連携人材育成・定着プロジェクト 「成果発表会」を開催

【概要】

本学は、令和5年2月2日（木）、「産学金官連携人材育成・定着プロジェクト」の一環として、工学部の学生及び地域協学センター教員等による成果発表会を、本学講堂において対面とオンラインで開催しました。対面での開催は3年ぶりに実施することができました。

「産学金官連携人材育成・定着プロジェクト」とは、岐阜県、産業界、大学、さらには金融機関が連携し、県内企業の高度技術者等の確保・育成及び定着を支援し、地域経済の活性化を図ることを目的とするものです。

本プロジェクトの一環として、工学部の学生は授業科目「機械工学創造演習」において、グループごとに県内企業による講義や実習に参加しました。また、本学が推進する「次世代地域リーダー育成プログラム」の科目の一つで、地域協学センターが開講する「地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る」を受講した学生は、県内企業で活躍する若手社員の方々取材し、企業紹介のレポートを作成しました。

発表会では、産学金官連携人材育成・定着プロジェクト推進協議会長である株式会社ナベヤの岡本知彦代表取締役社長から「県内には魅力ある企業、面白い企業がたくさんあるということを知りながら体験してもらおうがこのプログラム。ぜひ県内企業に就職していただきたい」と挨拶がありました。また、松尾清一東海国立大学機構長からは「学生が地域の企業に行って実際の活動を見て、学んでいることがどう役に立つのか、何を勉強したら良いのかに気づくことができ、素晴らしい取り組みだと思う。岐阜県とたくさんの地元企業から支援をいただいて成り立っている事業であり御礼申し上げます」、本学吉田和弘学長からは「実習を通じて学生はものづくりの楽しさ・難しさへの理解を深めると同時に、県内企業の技術の高さ、そこに働く人々の温かさや生きがいを認識できたのではないかと。コロナ禍で活動が制限されている中で、実習に行かせていただき感謝しています」と挨拶がありました。

続いて全部で28の学生グループ等がこれまでの取り組みで得られた成果について発表（スライドショーによるプレゼンテーション）を行い、学生からは「岐阜県内の企業活動を知るよい機会であった」などと肯定的な振り返りがありました。

本学は今後も、本プロジェクトを通して、大学、県、産業界、金融機関等が一丸となって、地域・地元産業界の課題解決に向けて行動できる人材の育成、確保、定着を推進し、地域・地元産業界の活性化に貢献していきます。



岡本知彦 会長



学生が発表をしている様子